

III 調査結果

3-1 現在の状況

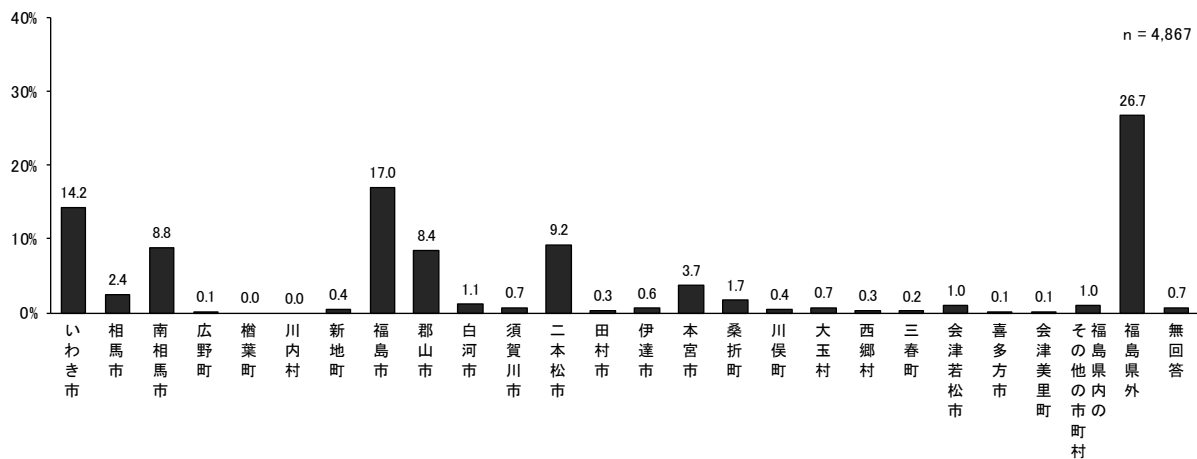
3-1-1 現在の避難先自治体

問5 あなたが現在避難されている市町村を教えてください。(〇は1つ)

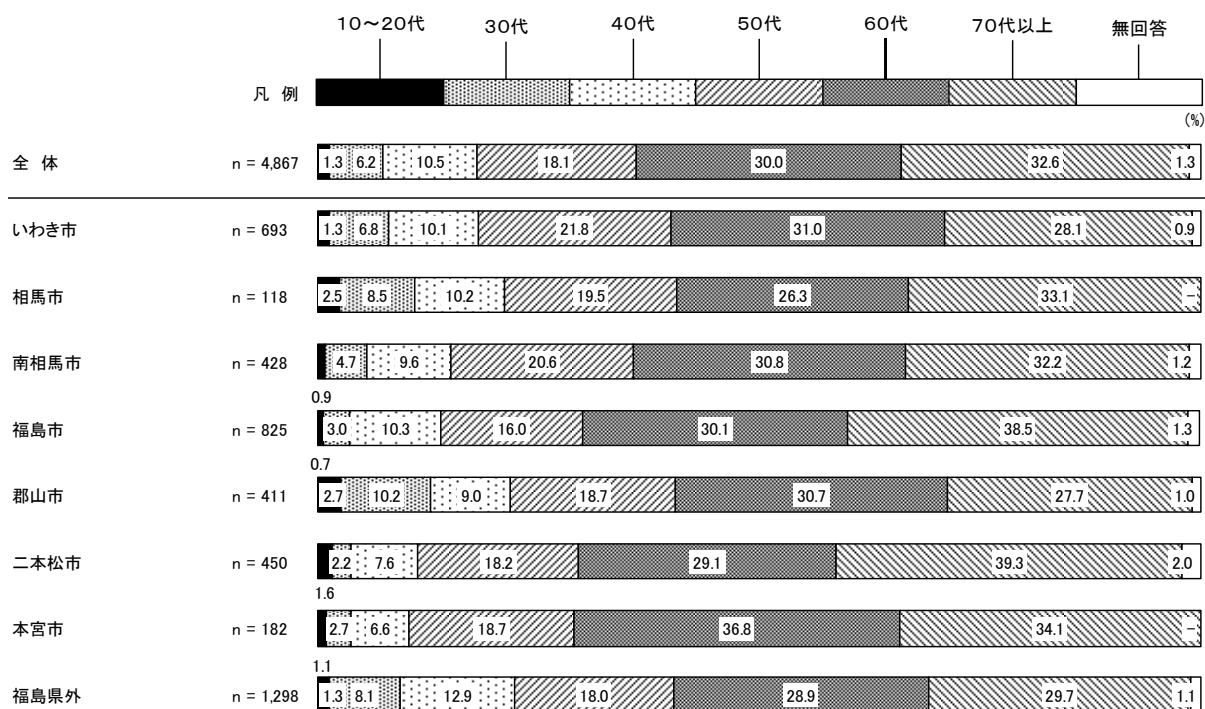
現在の避難先自治体については、「福島県外」が26.7%と最も高く、次いで「福島市」が17.0%、「いわき市」が14.2%となっている。

避難先の主な自治体について回答者の年齢別にみると、「南相馬市、福島市、二本松市、本宮市」は60代以上が6割を超えており、高齢層の割合が高くなっている。一方、「相馬市、郡山市」では30代以下が1割を超えており、若年層の割合が比較的高くなっている。

<図表3-1-1-1 避難先自治体>



<図表3-1-1-2 主な避難先自治体の年齢構成>



震災発生当時の住まいの行政区別にみると、中浜、両竹、末ノ森では「いわき市」が3割以上、南津島下では「福島市」が3割以上となっている。また、羽附では「福島市」「二本松市」が3割以上となっている。

<図表3-1-1-3 主な避難先自治体（震災発生当時の住まいの行政区別）>

	n	いわき市	相馬市	南相馬市	福島市	郡山市	二本松市	本宮市	福島県外
全体	4,867	142	2.4	8.8	17.0	8.4	9.2	3.7	26.7
1区	98	8.2	2.0	9.2	27.6	9.2	3.1	3.1	29.6
2区	49	10.2	2.0	10.2	16.3	6.1	4.1	4.1	38.8
3区	33	6.1	-	24.2	27.3	9.1	3.0	-	21.2
4区	197	14.7	3.6	9.6	17.8	6.6	9.1	3.6	25.4
5区	120	10.0	2.5	13.3	18.3	10.0	7.5	0.8	31.7
6区	54	16.7	-	9.3	22.2	3.7	5.6	1.9	29.6
7区	55	18.2	1.8	9.1	14.5	5.5	12.7	1.8	29.1
8区	115	18.3	3.5	6.1	19.1	7.8	8.7	-	28.7
佐屋前	130	19.2	6.2	2.3	13.8	9.2	5.4	1.5	32.3
川添北	247	17.8	3.2	7.7	14.2	9.3	9.3	2.0	30.0
川添南	197	16.2	1.0	7.1	14.2	10.2	8.6	3.0	29.4
上ノ原	398	15.5	2.4	6.8	11.9	9.5	11.3	2.7	31.0
樋渡・牛渡	259	12.7	2.7	6.2	21.6	6.2	7.3	4.6	29.7
高瀬	144	13.2	4.2	13.2	10.4	14.6	9.0	2.1	22.9
幾世橋	168	10.7	3.6	7.1	18.5	13.7	7.1	3.0	31.0
北幾世橋北	144	13.2	4.9	14.6	16.0	13.2	5.6	4.2	17.4
北幾世橋南	64	12.5	3.1	17.2	14.1	6.3	3.1	6.3	29.7
北棚塩	58	20.7	6.9	6.9	19.0	8.6	3.4	6.9	22.4
南棚塩	81	12.3	3.7	21.0	27.2	6.2	2.5	4.9	14.8
請戸北	156	19.2	3.2	9.6	18.6	4.5	8.3	1.3	28.8
請戸南	115	19.1	0.9	6.1	18.3	7.0	11.3	3.5	24.3
中浜	40	30.0	2.5	7.5	17.5	7.5	10.0	-	22.5
両竹	25	32.0	-	4.0	12.0	4.0	4.0	4.0	36.0
小丸	26	19.2	3.8	3.8	19.2	15.4	19.2	-	11.5
畑川	11	-	-	9.1	-	-	36.4	27.3	9.1

	n	いわき市	相馬市	南相馬市	福島市	郡山市	二本松市	本宮市	福島県外
井手	86	16.3	1.2	5.8	19.8	4.7	18.6	1.2	25.6
田尻	229	14.8	1.7	11.8	8.7	7.9	8.7	3.1	33.2
末ノ森	35	31.4	-	17.1	11.4	5.7	22.9	-	2.9
大堀	90	14.4	-	11.1	15.6	7.8	5.6	8.9	24.4
小野田	84	21.4	4.8	3.6	10.7	4.8	11.9	2.4	27.4
谷津田	69	17.4	1.4	10.1	18.8	5.8	5.8	2.9	27.5
酒井	59	6.8	1.7	8.5	20.3	22.0	5.1	1.7	30.5
室原	151	12.6	4.6	14.6	13.2	4.6	6.0	3.3	28.5
立野上	61	1.6	-	11.5	11.5	4.9	18.0	9.8	32.8
立野中	72	9.7	1.4	13.9	12.5	11.1	9.7	9.7	25.0
立野下	86	24.4	2.3	5.8	19.8	5.8	12.8	2.3	16.3
刈宿	85	17.6	2.4	4.7	21.2	4.7	9.4	7.1	21.2
加倉	182	13.2	0.5	6.0	14.8	11.0	12.1	3.3	26.4
酒田	142	14.8	0.7	11.3	16.2	12.0	4.9	2.8	25.4
西台	93	10.8	2.2	8.6	18.3	8.6	8.6	9.7	26.9
藤橋	73	9.6	-	12.3	12.3	5.5	6.8	4.1	41.1
羽附	26	7.7	-	3.8	38.5	-	30.8	-	11.5
津島	89	1.1	-	3.4	25.8	5.6	24.7	5.6	19.1
下津島	30	3.3	6.7	3.3	26.7	6.7	13.3	10.0	10.0
南津島上	37	-	-	-	27.0	10.8	18.9	13.5	13.5
南津島下	48	14.6	2.1	2.1	35.4	6.3	8.3	8.3	8.3
赤字木	63	1.6	1.6	3.2	23.8	11.1	19.0	6.3	17.5
手七郎	22	-	-	9.1	27.3	4.5	13.6	9.1	13.6
大屋	16	12.5	-	6.3	18.8	-	-	18.8	18.8
わからない	7	28.6	-	-	-	28.6	-	-	28.6

3-1-2 世帯構成・人数

(1) 震災発生当時の世帯構成・人数

問6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

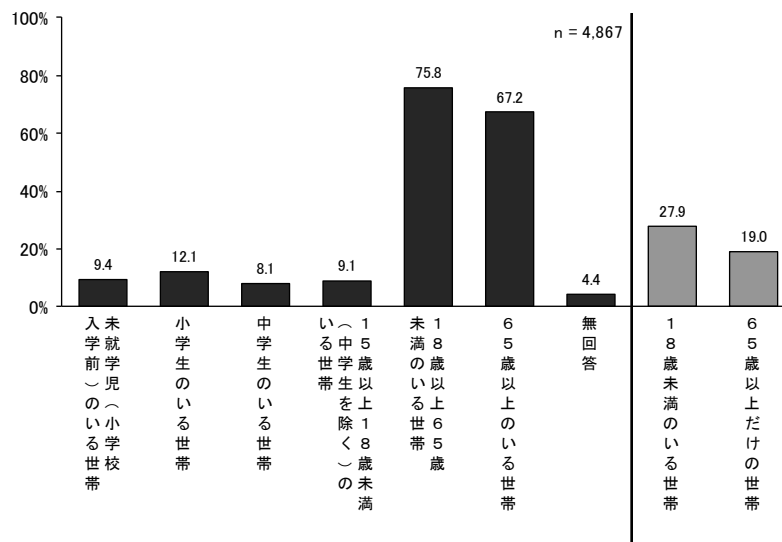
(1) 「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

① 震災発生当時の世帯構成

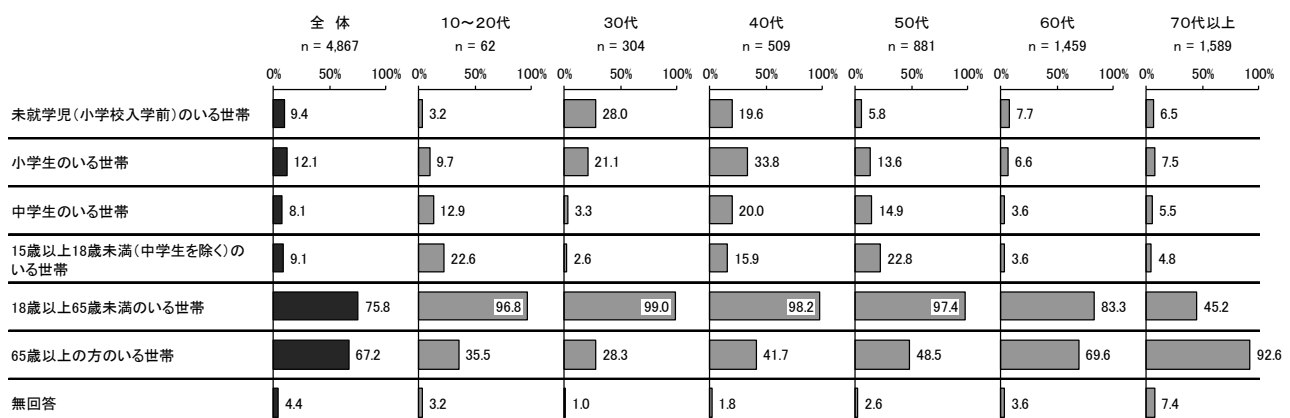
震災発生当時の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が75.8%、「65歳以上のいる世帯」が67.2%となっている。一方、「未就学児のいる世帯」、「小学生のいる世帯」、「中学生のいる世帯」、「15歳以上18歳未満のいる世帯」はいずれも1割前後となっている。

<図表3-1-2-1 震災発生当時の世帯構成>



*集計結果を基に再集計

<図表3-1-2-2 震災発生当時の世帯構成(年齢別)>

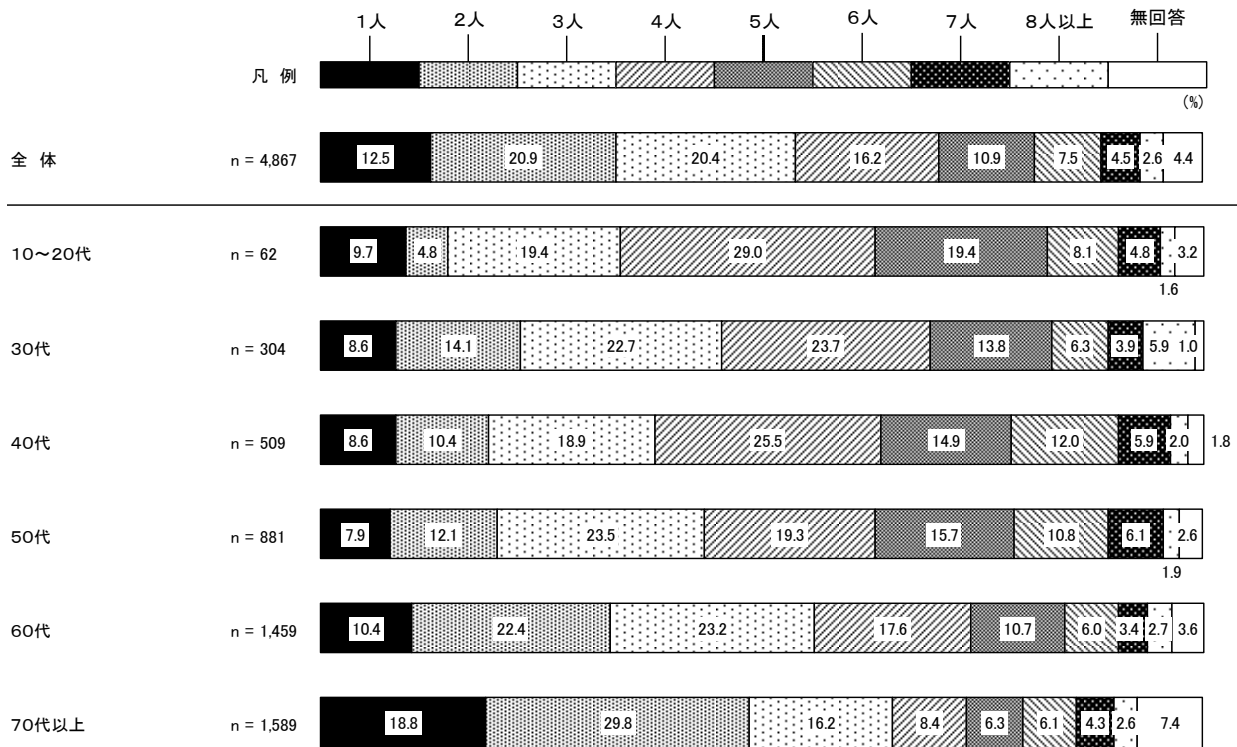


② 震災発生当時の世帯人数

震災発生当時の世帯人数は、「2人」が20.9%と最も高く、次いで「3人」(20.4%)、「4人」(16.2%)となっている。

回答者の年齢別にみると、「2人」は概ね年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、70代以上で29.8%と最も高くなっている。「3人」は50代で23.5%、「4人」は10~20代で29.0%と最も高くなっている。

<図表3-1-2-3 震災発生当時の世帯人数(年齢別)>



(2) 現在の世帯構成・人数

問6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

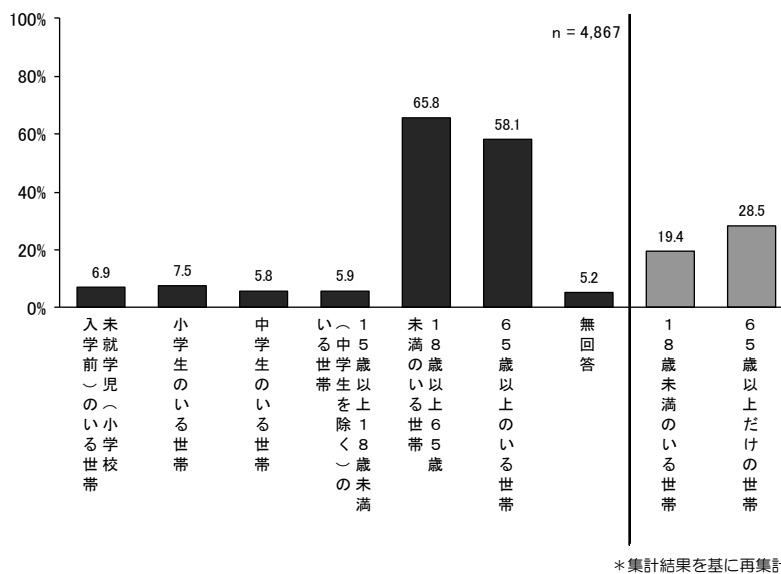
(2)「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

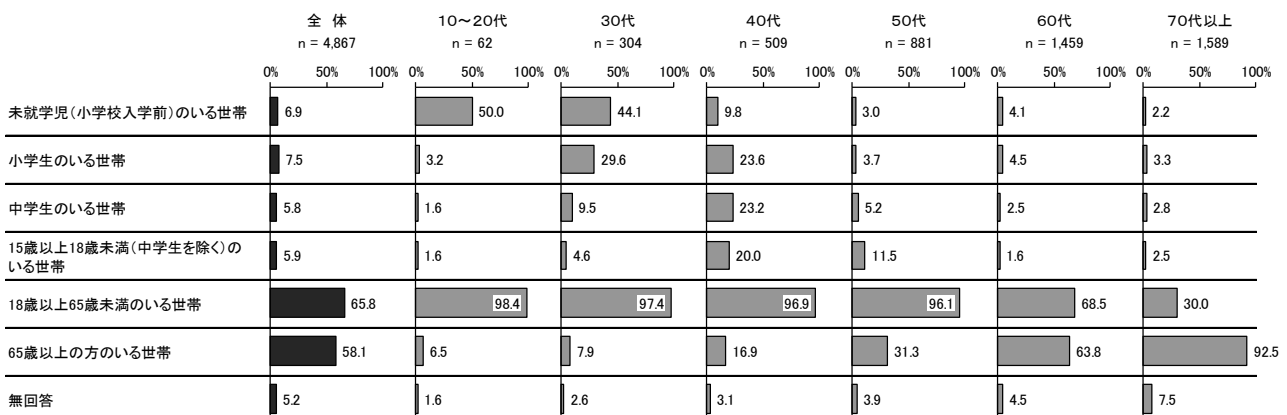
① 現在の世帯構成

現在の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が65.8%、「65歳以上のいる世帯」が58.1%となっている。一方、「未就学児のいる世帯」、「小学生のいる世帯」、「中学生のいる世帯」、「15歳以上18歳未満のいる世帯」はいずれも1割未満となっている。

<図表3-1-2-4 現在の世帯構成>



<図表3-1-2-5 現在の世帯構成(年齢別)>

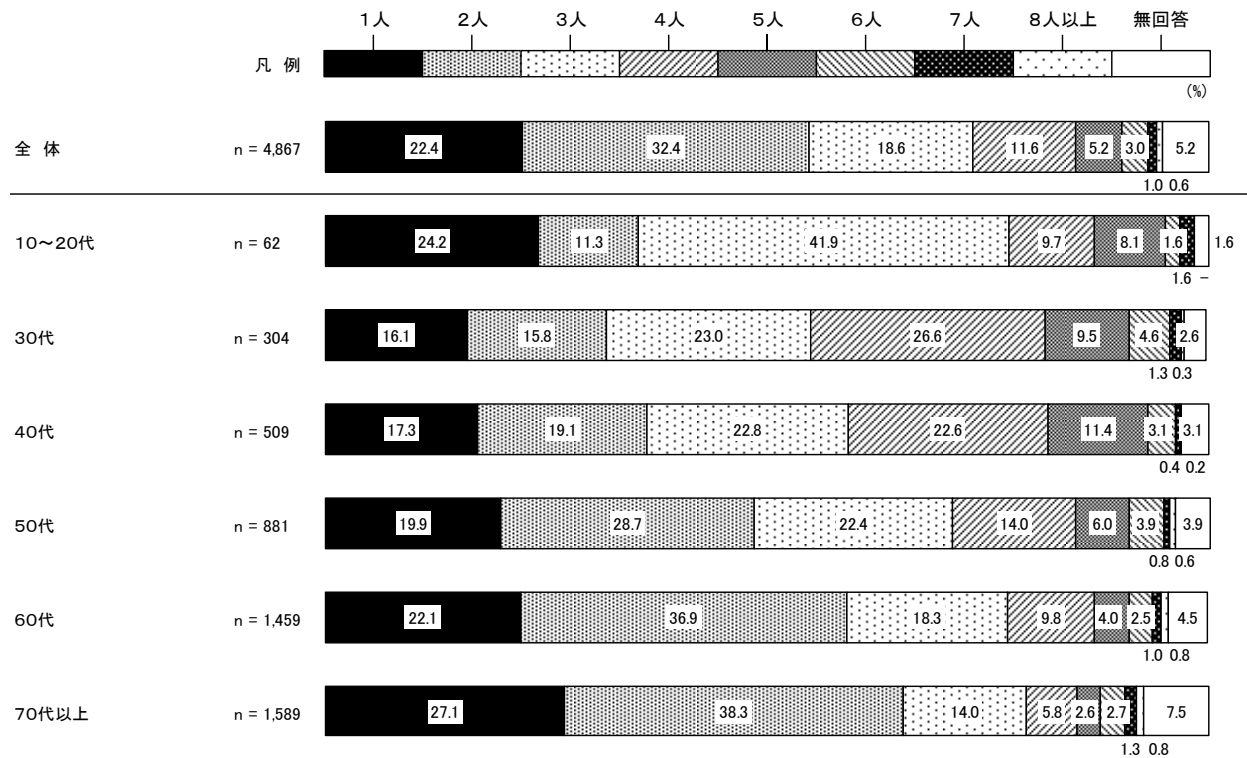


② 現在の世帯人数

現在の世帯人数は、「2人」が32.4%と最も高く、次いで「1人」が22.4%、「3人」が18.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、「1人」は10~20代(24.2%)、70代以上(27.1%)、「2人」は60代(36.9%)、70代以上(38.3%)、「3人」は10~20代(41.9%)、「4人」は30代(26.6%)、40代(22.6%)が他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-1-2-6 現在の世帯人数(年齢別)>



3-1-3 職業

(1) 現在の職業（就業形態）

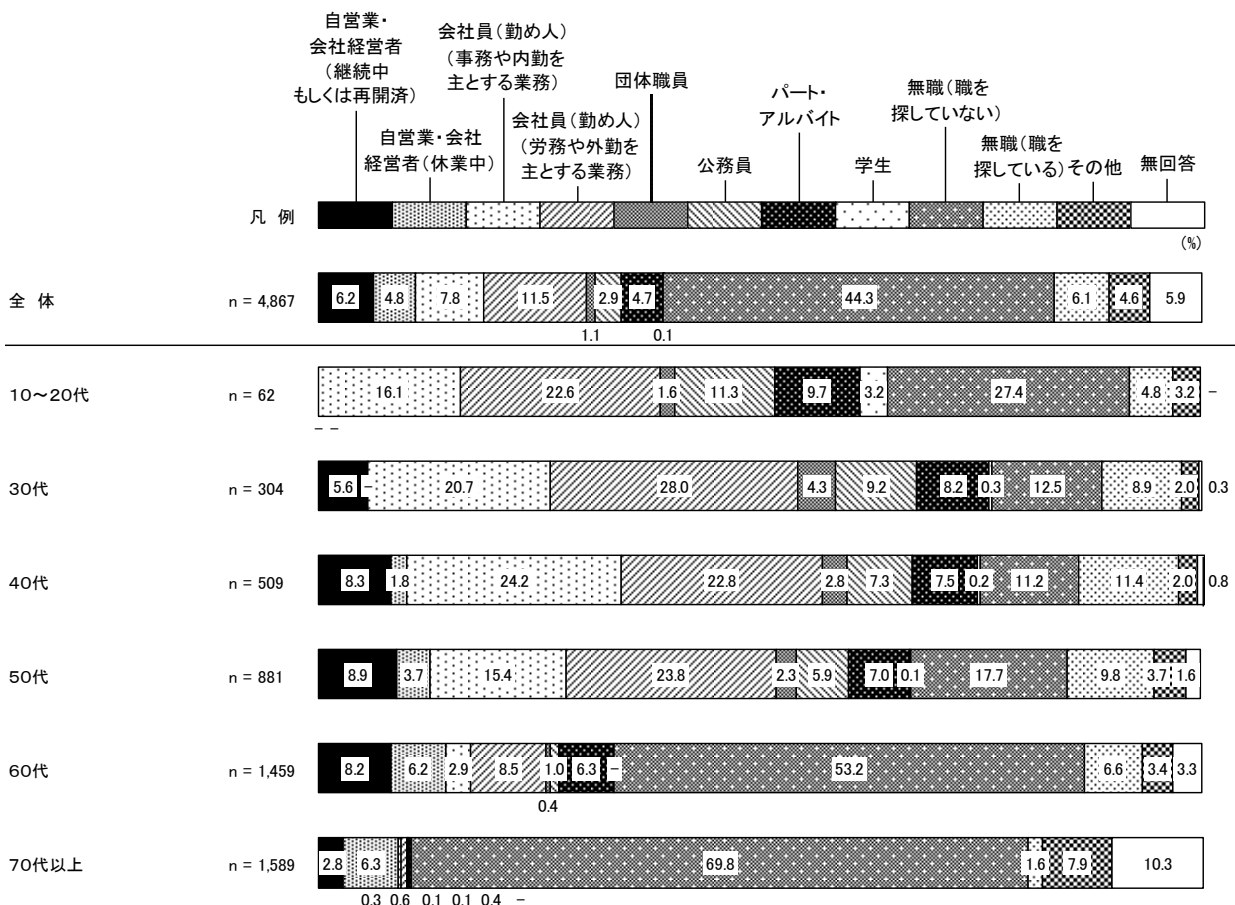
問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種と今後の継続意向も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）(〇は1つ)

現在の職業(就業形態)については、無職以外では「会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務)」が11.5%と最も高く、次いで「会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務)」が7.8%となっている。

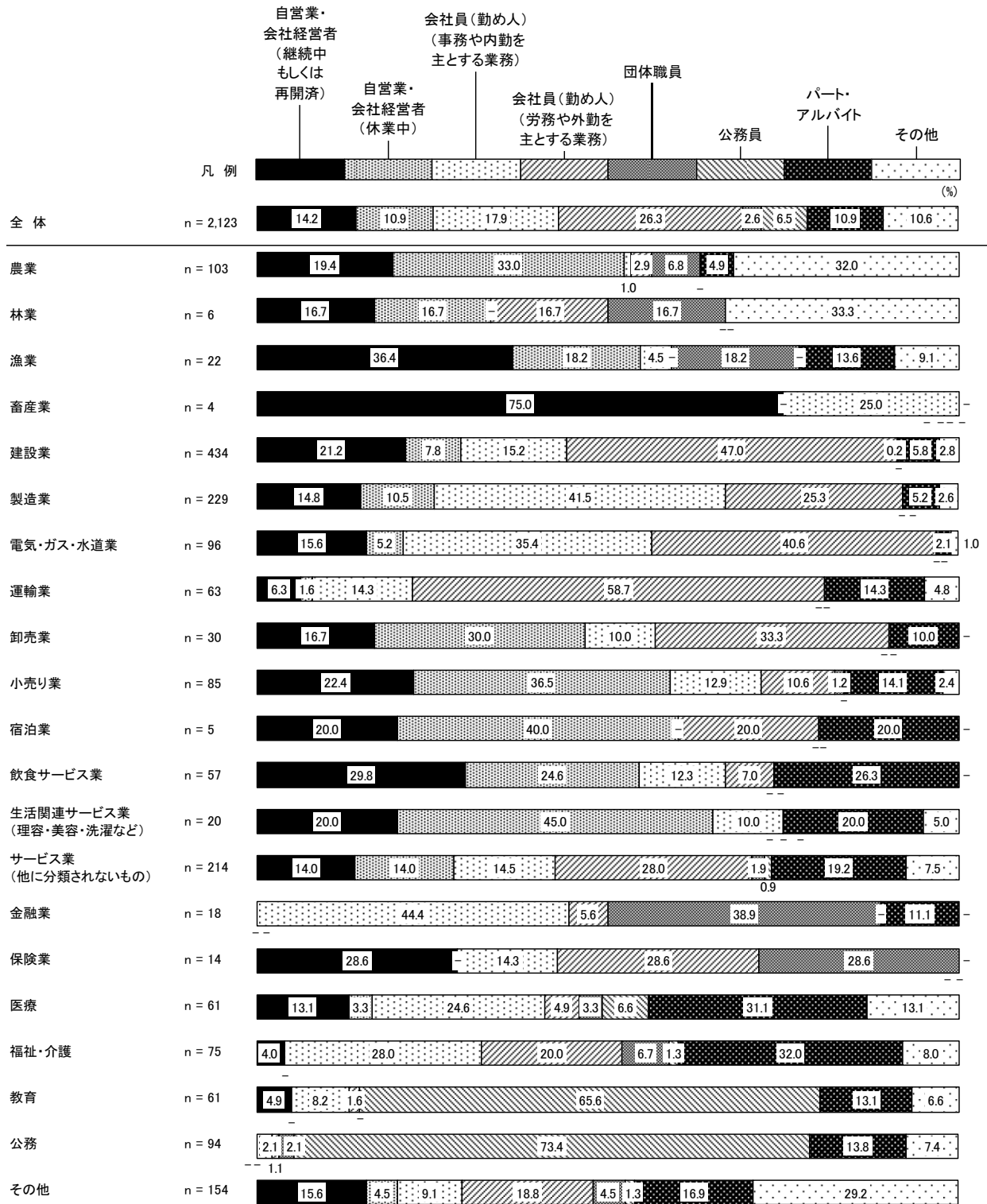
回答者の年齢別にみると、それぞれ最も高い割合を占めている職業は、10~20代で「無職(職を探していない)」が27.4%、30代で「会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務)」が28.0%、40代で「会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務)」が24.2%、50代で「会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務)」が23.8%、60代で「無職(職を探していない)」が53.2%、70代で「無職(職を探していない)」が69.8%となっている。

<図表3-1-3-1 現在の職業（年齢別）>



世帯主が就業しているとした世帯について業種別にみると、建設業では「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」（47.0%）、運輸業では「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」（58.7%）、製造業では「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」（41.5%）が他の業種と比べ高くなっている。

<図表3-1-3-2 現在の職業（業種別）>



(2) 現在の業種

問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種と今後の継続意向も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

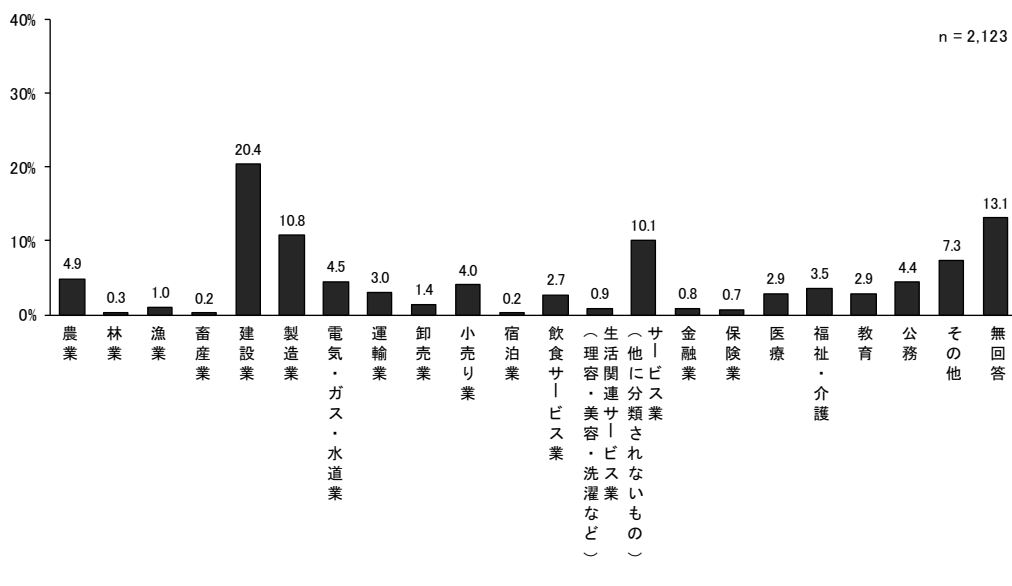
【問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

世帯主が就業しているとした世帯の業種については、「建設業」が20.4%と最も高く、次いで「製造業」が10.8%、「サービス業（他に分類されないもの）」が10.1%となっている。

回答者の年齢別にみると、「建設業」は、60代が28.1%、「製造業」は、10～20代が20.0%と高くなっている。

<図表3-1-3-3 業種>



<図表3-1-3-4 業種（年齢別）>

	n	農業	林業	漁業	畜産業	建設業	製造業	電気・ガス・水道業	運輸業	卸売業	小売業	宿泊業	飲食サービス業	生活関連サービス業（理容・美容・洗濯など）	サービス業（他に分類されないもの）	金融業	保険業	医療	福祉・介護	教育	公務	その他	無回答
全体	2,123	4.9	0.3	1.0	0.2	20.4	10.8	4.5	3.0	1.4	4.0	0.2	2.7	0.9	10.1	0.8	0.7	2.9	3.5	2.9	4.4	7.3	13.1
10～20代	40	-	2.5	-	-	7.5	20.0	10.0	2.5	-	2.5	-	15.0	-	5.0	2.5	-	5.0	-	2.5	10.0	2.5	12.5
30代	237	0.8	0.4	0.4	-	16.0	14.3	9.7	1.7	1.3	2.1	-	3.4	0.8	11.0	0.8	0.8	6.3	6.3	5.5	5.9	5.9	6.3
40代	389	0.8	-	1.0	-	19.3	15.7	5.9	4.1	0.5	3.9	0.3	1.8	1.0	9.0	1.3	0.3	3.1	5.4	3.6	6.9	3.9	12.3
50代	624	3.4	0.2	1.0	0.3	20.5	11.5	4.8	4.2	1.9	2.7	0.2	1.8	0.6	11.5	1.0	0.6	2.6	3.5	3.7	5.1	5.3	13.6
60代	538	5.9	0.2	1.5	0.4	28.1	6.9	2.8	2.6	1.5	5.2	0.6	3.5	0.7	10.2	0.7	1.3	2.0	2.6	1.5	2.8	10.8	8.2
70代以上	291	15.5	0.7	1.0	-	13.1	5.8	0.3	0.3	1.7	6.5	-	2.1	2.1	8.2	-	-	1.7	0.7	0.7	0.7	11.0	27.8

(3) 今後の継続意向

問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種と今後の継続意向も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

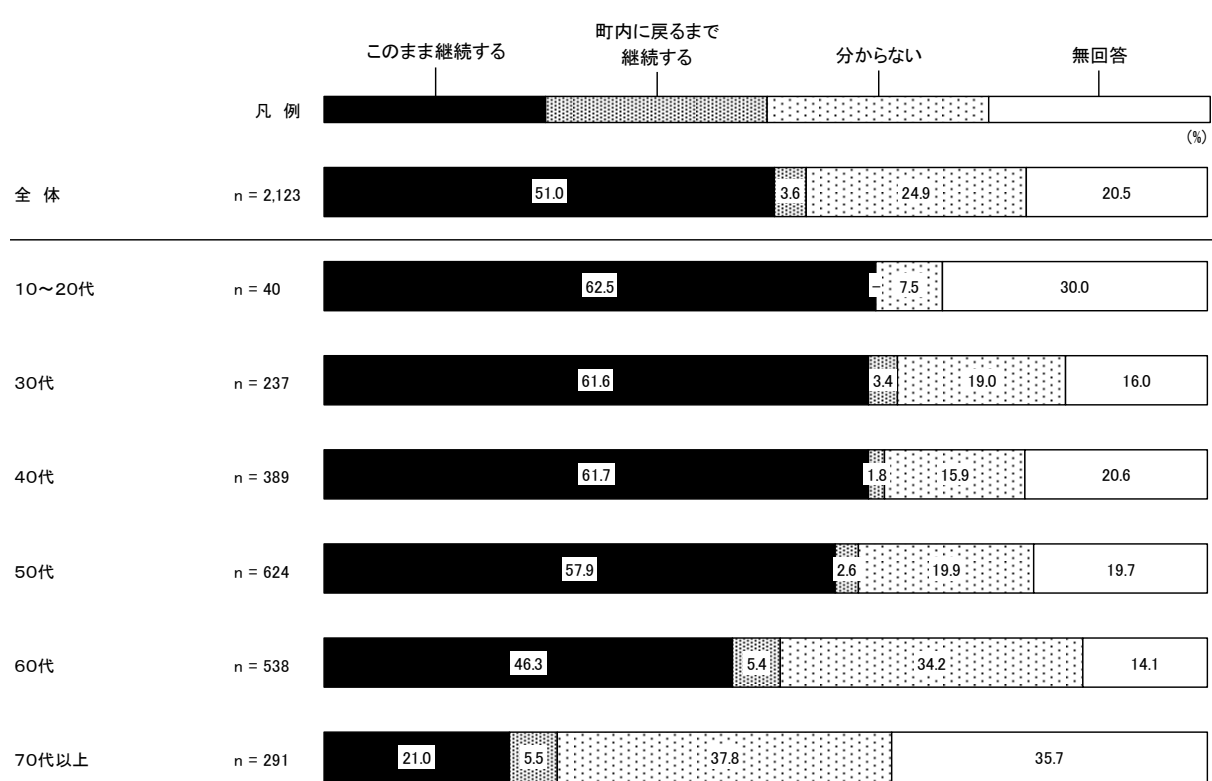
【問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方にうかがいます。】

(3) 今後の継続 (〇は1つ)

世帯主が就業しているとした世帯の今後の継続意向については、「このまま継続する」が51.0%と最も高く、次いで「分からない」が24.9%、「町内に戻るまで継続する」が3.6%となっている。

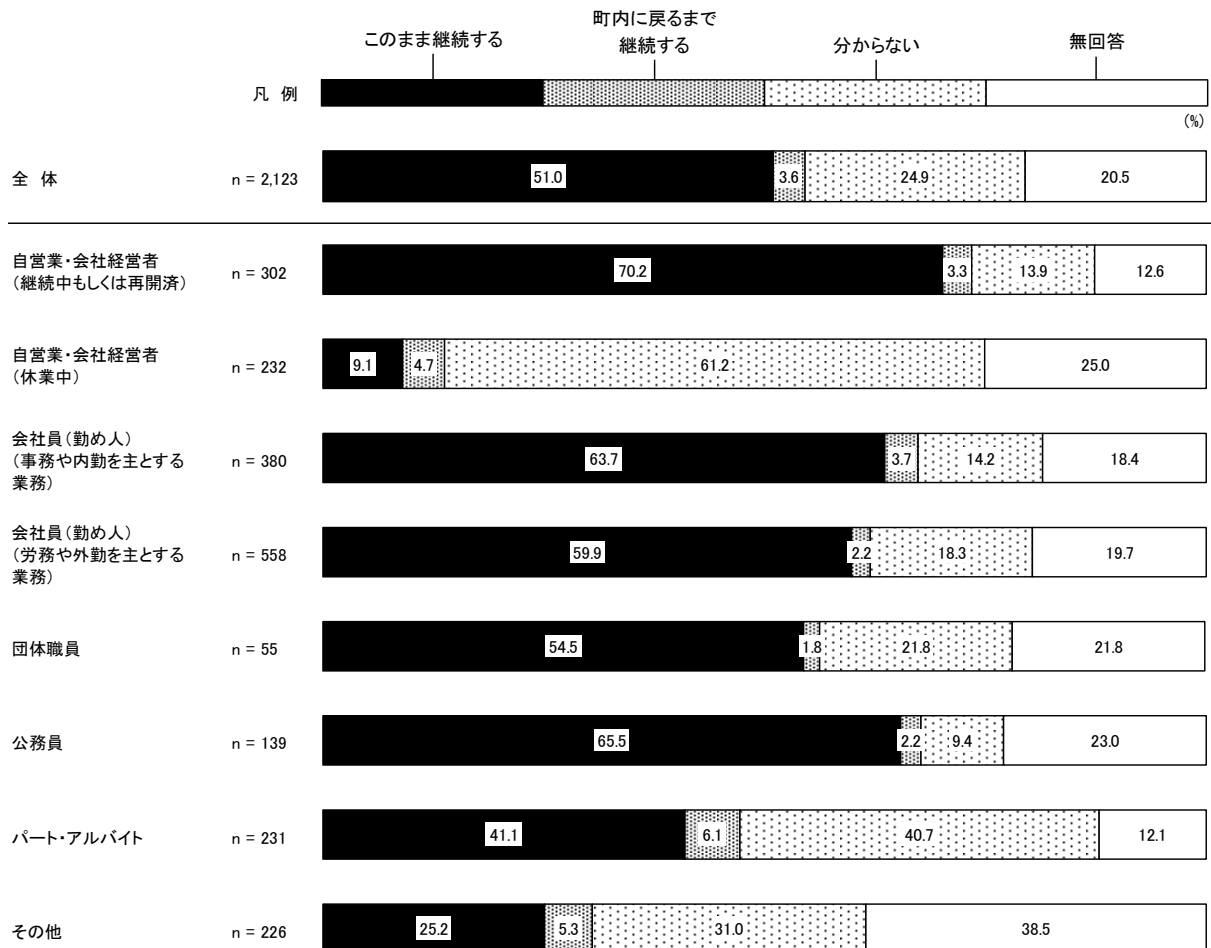
回答者の年齢別にみると、「このまま継続する」は10~20代、30代、40代で6割以上となっている。「分からない」は70代以上で37.8%、60代で34.2%と、他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-1-3-5 今後の継続意向(年齢別)>



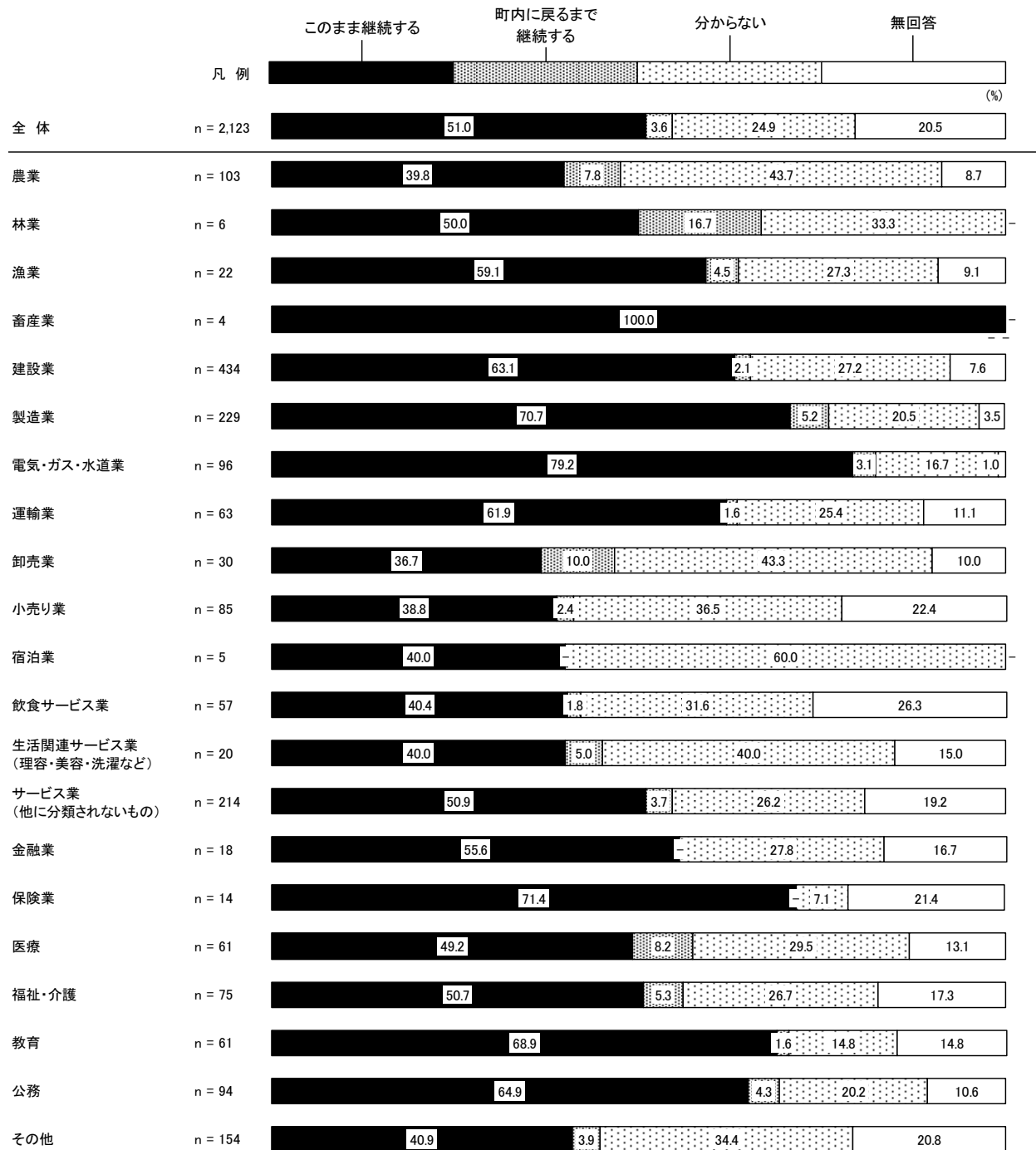
職業別にみると、「このまま継続する」は自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）で70.2%と、他に比べ高くなっている。「分からない」は自営業・会社経営者（休業中）で61.2%、パート・アルバイトで40.7%と、他に比べ高くなっている。

<図表3-1-3-6 今後の継続意向（職業別）>



業種別にみると、「このまま継続する」は電気・ガス・水道業で79.2%と、他に比べ高くなっている。

<図表3-1-3-7 今後の継続意向（業種別）>



3-1-4 震災発生当時の住宅の状況

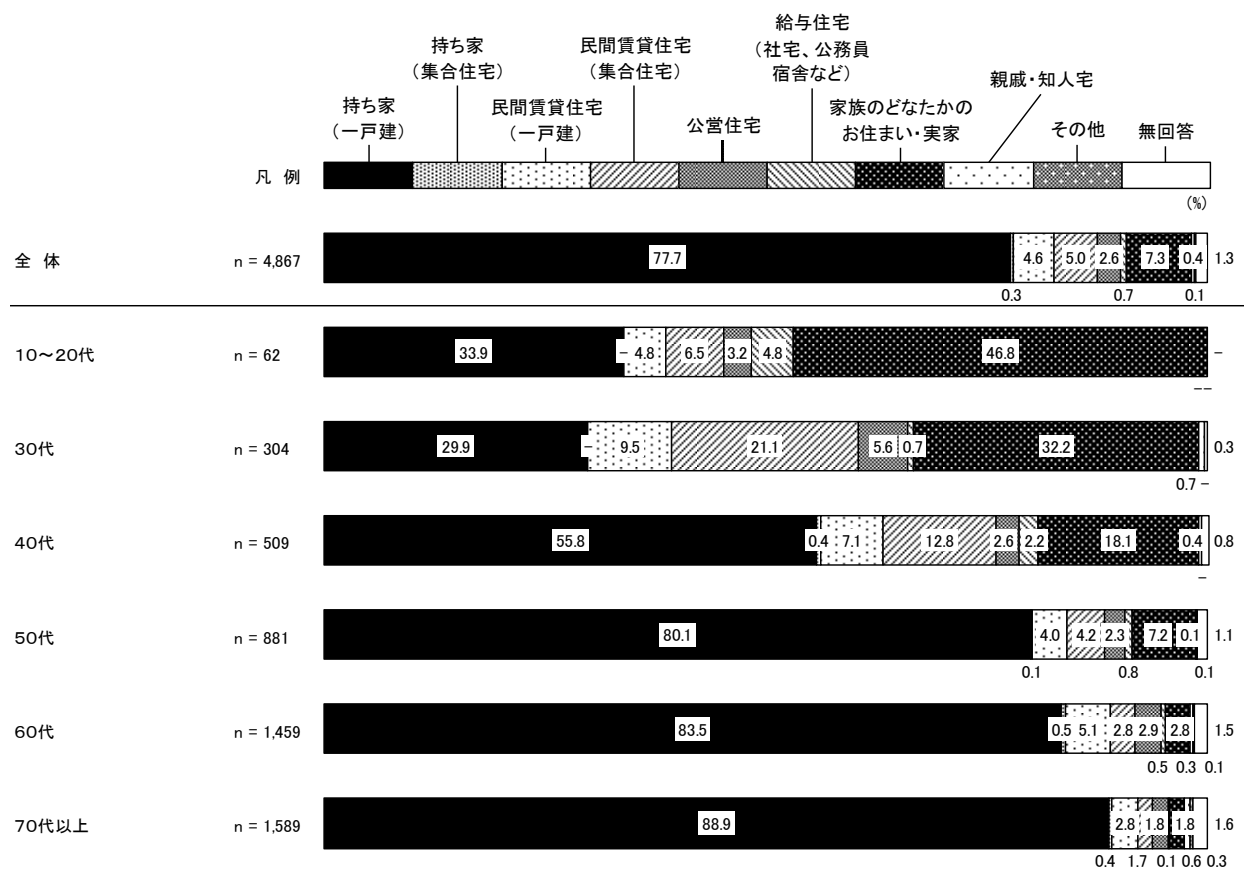
(1) 震災発生当時の住居形態

問4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

震災発生当時の住居形態については、「持ち家(一戸建)」が77.7%と最も高く、「持ち家(集合住宅)」(0.3%)を合わせたく持ち家>は78.0%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家(一戸建)」は概ね年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、70代以上では88.9%と9割近くを占める。一方、「民間賃貸住宅(集合住宅)」、「家族のどなたかのお住まい・実家」は10~20代、30代、40代で高く、「民間賃貸住宅(集合住宅)」は10~20代で6.5%、30代で21.1%、40代で12.8%、「家族のどなたかのお住まい・実家」は10~20代で46.8%、30代で32.2%、40代で18.1%となっている。

<図表3-1-4-1 震災発生当時の住居形態(年齢別)>



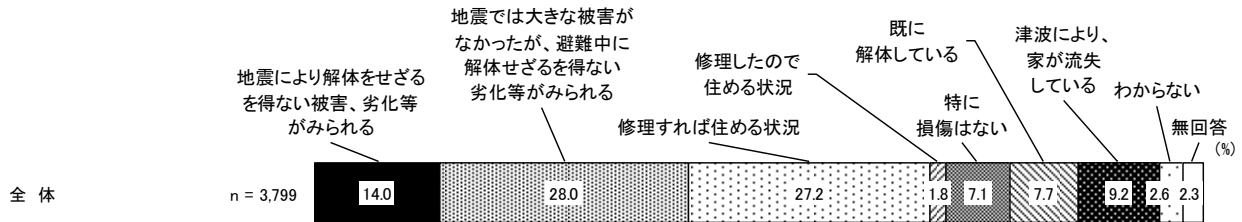
(2) 震災発生当時の住宅の状況

【問4で「1. 持ち家(一戸建)」「2. 持ち家(集合住宅)」と回答した方にうかがいます。】

問4-1 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような状況ですか。(〇は1つ)

震災発生当時の住宅の状況については、「地震では大きな被害がなかったが、避難中に解体せざるを得ない劣化等がみられる」が28.0%と最も高く、次いで「修理すれば住める状況」が27.2%となっている。

<図表3-1-4-2 震災発生当時の住宅の状況>



(3) 震災発生当時の住宅の今後の所有

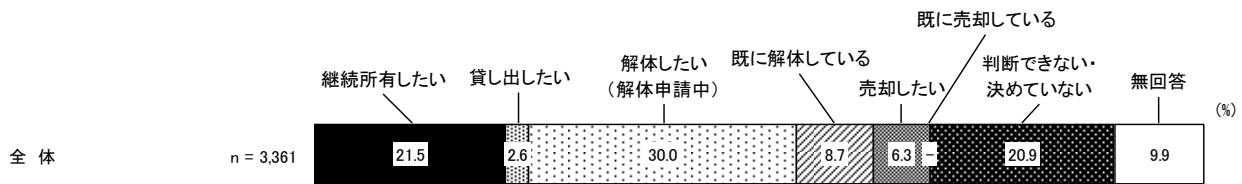
【問4-1で「1」から「6」、「8」と回答した方にうかがいます。】

問4-2 震災発生当時にお住まいだった住宅について、今後の所有をどのようにお考えですか。(「1. 建物」「2. 宅地」それぞれについて、表内の該当するところに〇)

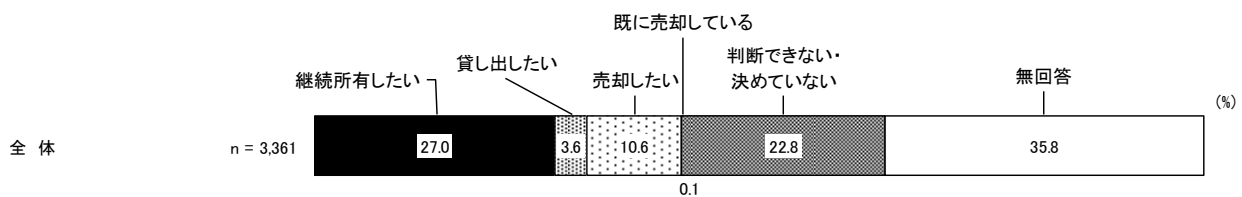
震災発生当時の住宅(建物)の今後の所有については、「解体したい(解体申請中)」が30.0%と最も高く、次いで「継続所有したい」が21.5%となっている。

震災発生当時の住宅(宅地)の今後の所有については、「継続所有したい」が27.0%と最も高く、次いで「判断できない・決めていない」が22.8%となっている。

<図表3-1-4-3 震災発生当時の住宅の今後の所有(建物)>



<図表3-1-4-4 震災発生当時の住宅の今後の所有(宅地)>



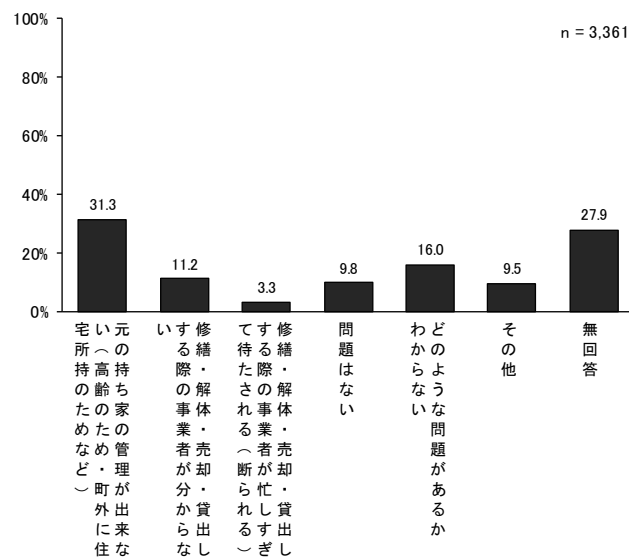
(4) 震災発生当時の持ち家・土地の維持管理・修繕・解体・売却するにあたっての問題

【問4-1で「1」から「6」、「8」と回答した方にうかがいます。】

問4-3 持ち家・土地の維持管理・修繕・解体・売却をするにあたっての問題はどのようなものがありますか。(〇はいくつでも)

震災発生当時の持ち家・土地の維持管理・修繕・解体・売却するにあたっての問題については、「元の持ち家の管理が出来ない」が31.3%と最も高く、次いで「修繕・解体・売却・貸出しする際の事業者が分からない」が11.2%となっている。また、「どのような問題があるかわからない」は16.0%となっている。

<図表3-1-4-5 震災発生当時の持ち家・土地の維持管理・修繕・解体・売却するにあたっての問題>



3-1-5 現在の住居形態

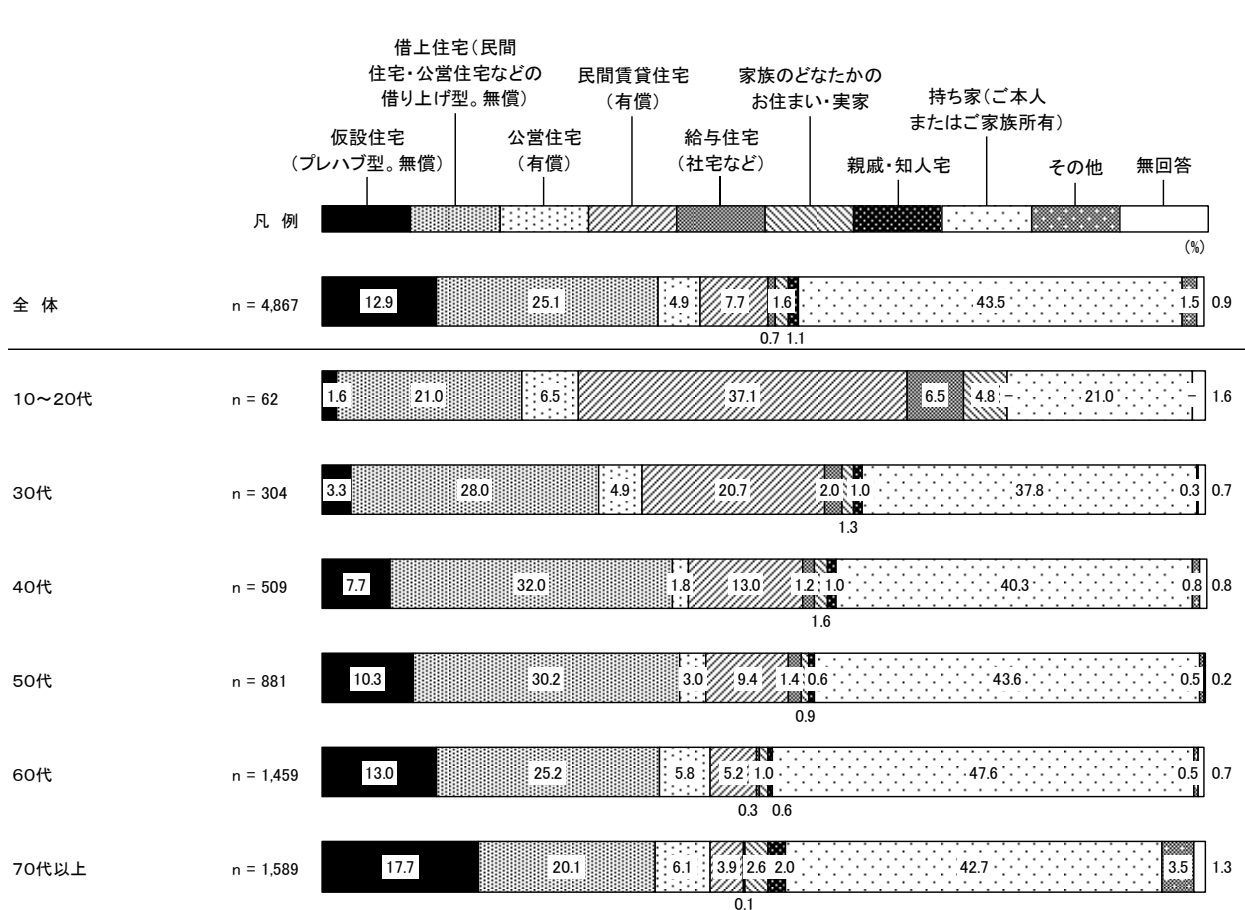
(1) 現在の住居形態

問7 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(〇は1つ)

現在の住居形態については、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が43.5%と最も高く、次いで「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」が25.1%、「仮設住宅（プレハブ型。無償）」が12.9%となっている。

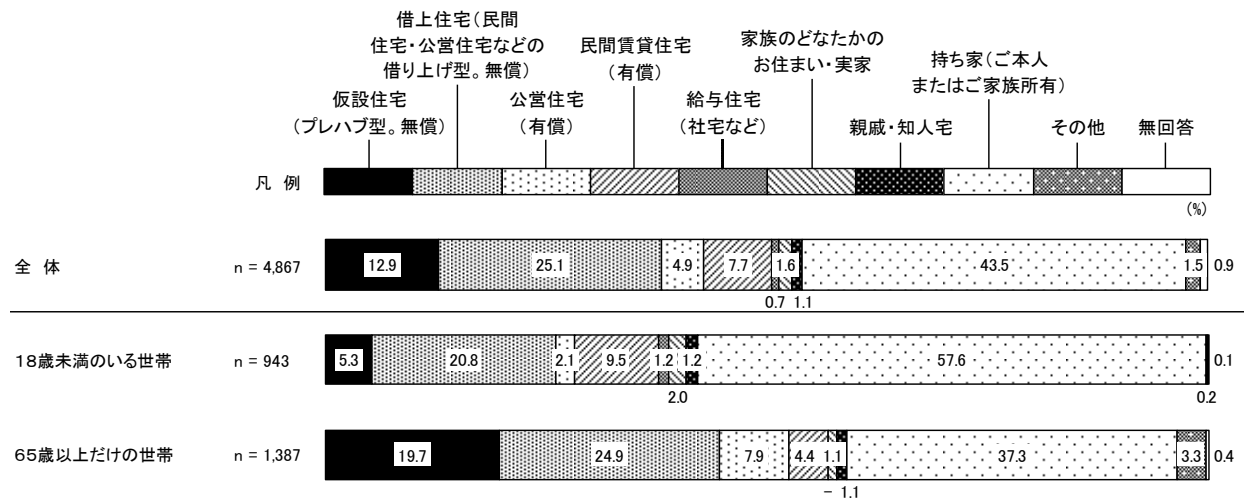
回答者の年齢別にみると、「仮設住宅（プレハブ型。無償）」は年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、70代以上では17.7%となっている。一方、「民間賃貸住宅（有償）」は若年層で高く、10～20代が37.1%、30代が20.7%となっている。

<図表3-1-5-1 現在の住居形態（年齢別）>



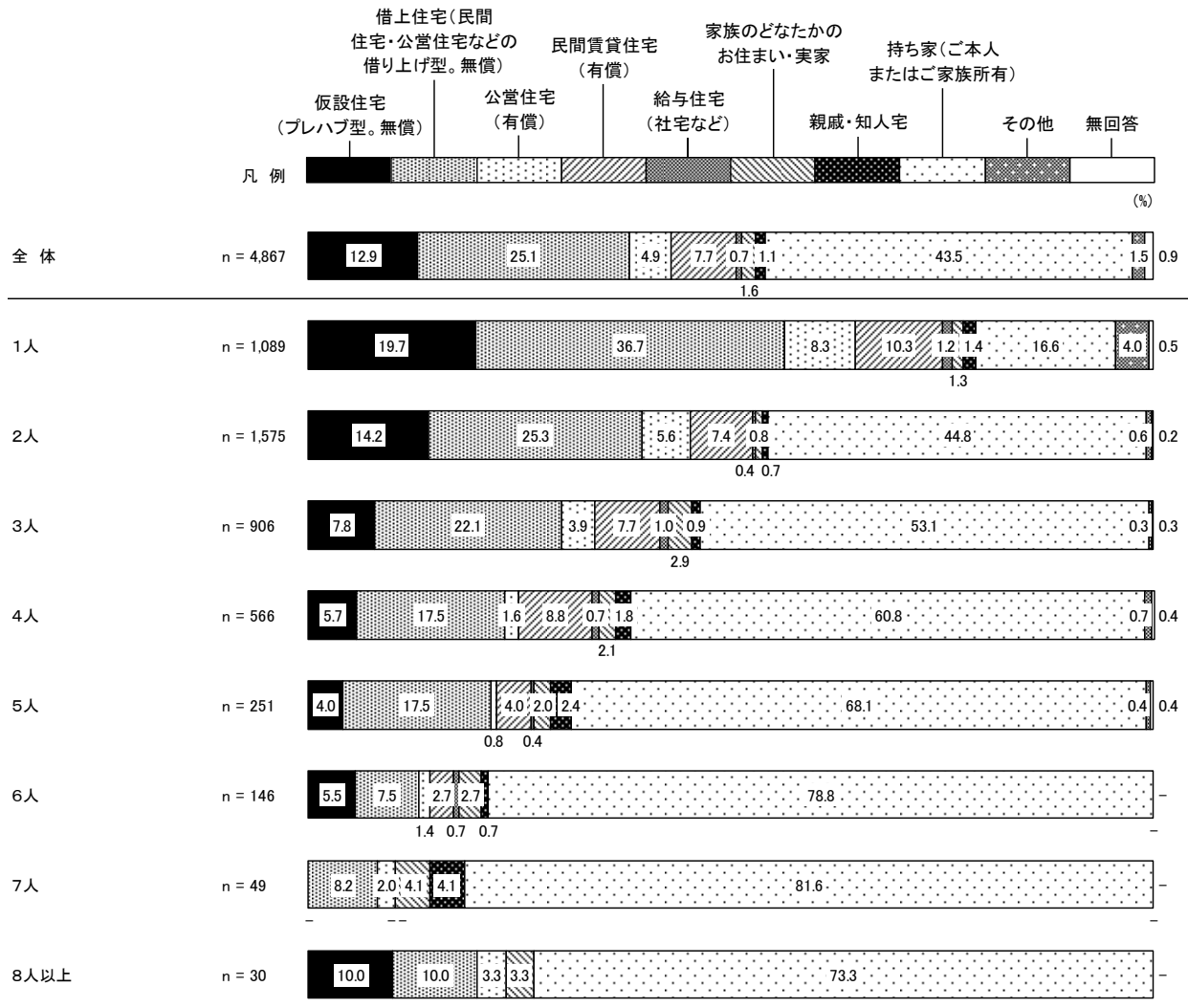
世帯構成別にみると、「仮設住宅（プレハブ型。無償）」は、65歳以上だけの世帯が19.7%と高くなっている。「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は、18歳未満のいる世帯が57.6%と高くなっている。

<図表3-1-5-2 現在の住居形態（世帯構成別）>



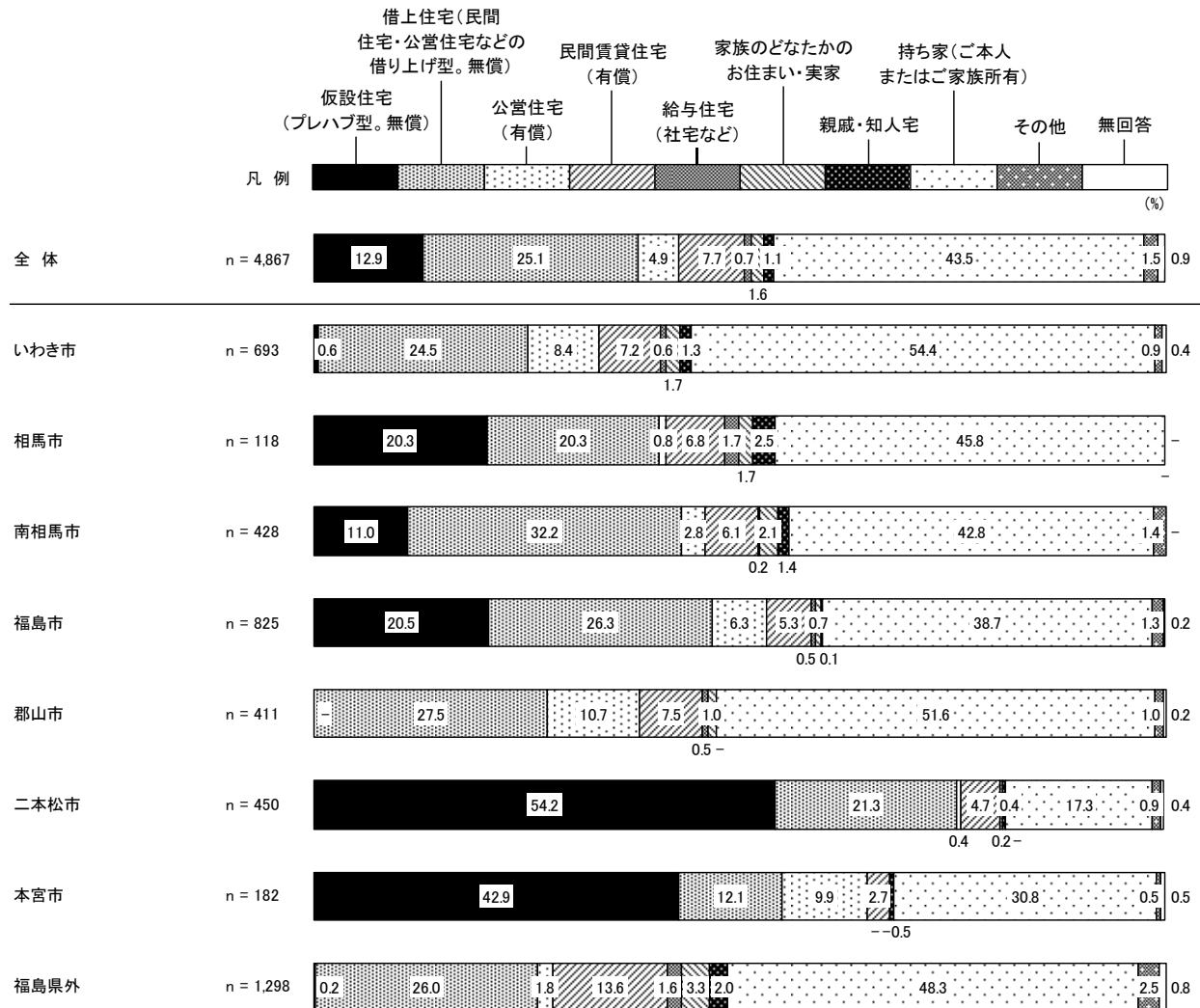
世帯人数別にみると、「仮設住宅（プレハブ型。無償）」、「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は、世帯人数が多くなるにつれ割合が低くなり、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は世帯人数が多くなるほど割合が高くなる傾向にある。

<図表3-1-5-3 現在の住居形態（世帯人数別）>



主な避難先自治体別にみると、「仮設住宅（プレハブ型。無償）」は二本松市（54.2%）、本宮市（42.9%）、
「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は南相馬市（32.2%）、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」はいわき市（54.4%）、郡山市（51.6%）で高くなっている。

<図表3-1-5-4 現在の住居形態（主な避難先自治体別）>



(2) 現在の持ち家の取得形態や入居後の問題点

【問7で「8.持ち家（ご本人またはご家族所有）」と回答した方にうかがいます。】

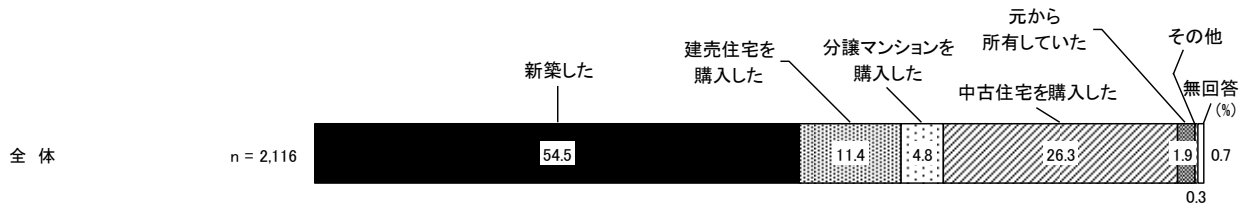
問7-1 現在お住まいになっている持ち家についての状況をお答えください。（それぞれ〇は1つ）

現在の持ち家の取得形態については、「新築した」が54.5%と最も高く、次いで「中古住宅を購入した」が26.3%、「建売住宅を購入した」が11.4%となっている。

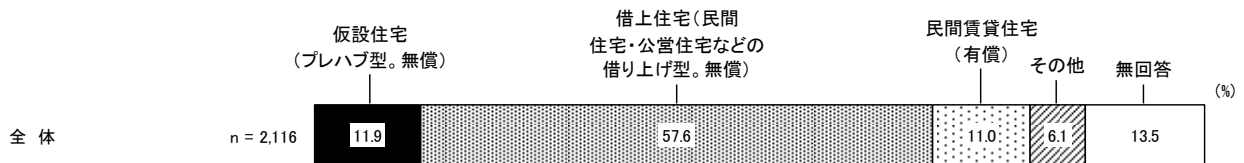
取得前の居住形態については、「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」が57.6%と最も高く、次いで「仮設住宅（プレハブ型。無償）」が11.9%、「民間賃貸住宅（有償）」が11.0%となっている。

入居後の問題点については、「特に問題はない」が32.7%と最も高く、次いで「地域の方と打ち解けられない」が27.8%、「原子力発電所事故による避難者ということを知られたくない」が27.5%となっている。

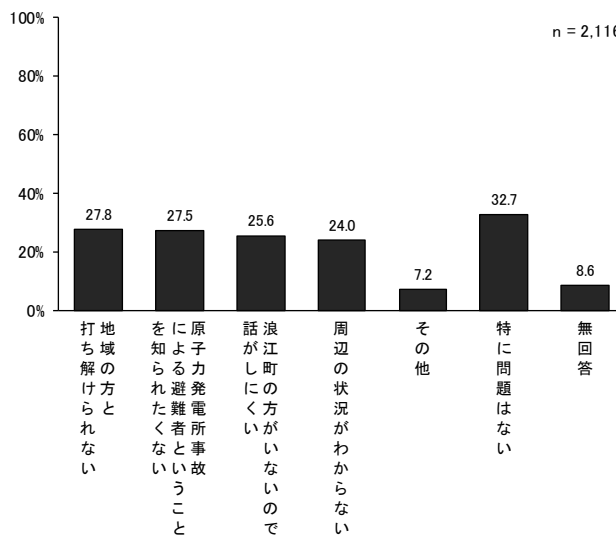
<図表3-1-5-5 現在の持ち家の取得形態>



<図表3-1-5-6 現在の持ち家の取得前の居住形態>



<図表3-1-5-7 入居後の問題点>



※入居後の問題点については複数回答可

3-1-6 現在のペットの飼育状況

問8 現在、ペットを飼っていますか。(〇はいくつでも)

現在のペットの飼育状況については、ペットは飼っていない世帯が72.7%と最も高く、次いで、犬を飼っている世帯（「屋内で犬を飼っている」、「屋外で犬を飼っている」）が15.2%、猫を飼っている世帯が7.0%となっている。

<図表3-1-6-1 現在のペットの飼育状況>

